

全国協議会 ニュース

2023年5月1日発行 第369号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

「なぜ会えないの？感謝の気持ちを伝えたい！」 2023 全国骨髄バンクボランティアの 集い in 東京のご案内

今年のボランティアの集いは、「なぜ会えないの？感謝の気持ちを伝えたい！」と題し開催します。

日本骨髄バンクを介しての骨髄移植は、ボランティア精神をもったドナーがいてこそ成立します。骨髄提供を受けた患者さん・患者家族は、ドナーさんに感謝の気持ちを表せるのは、匿名での手紙のやり取りを2回まで、2年間の期限付きです。

海外の骨髄バンクでは対面が認められているところが多くあります。

なぜ日本ではだめなの？金品の要求があるから？再発したら直接骨髄提供を依頼するから？それともっと何かあるの？

今回の集いでは過去に対面を果たした患者さんとドナーさん、移植を受けた患者家族、骨髄提供したドナーさんが集まり、シンポジウムを開催します。

司会は現在全国公開中の映画「いちばん逢いたいひと」のプロデューサー堀ともこさんです。

堀さん自身も移植経験患者家族そして骨髄提供ドナーを経験、この経験を踏まえて「いちばん逢いたいひと」を作られました。

ボランティアの集いには下の二次元バーコードからご参加いただけます。

2023 全国骨髄バンク

ボランティアの集い

5月27日(土)

14時～16時 Web 開催



全国協議会通常総会を開催します

全国骨髄バンク推進連絡協議会の2023年度通常総会は以下の日程・議案で開催いたします。

日時 5月28日(日)10時開始
議案 2022年度事業報告、2022年度決算報告および事業・会計監査報告、2023年度事業計画(案)、2023年度予算(案)、役員を選任
開催方法 Web会議

れども、今日、家に帰ったら食事の時に子どもとドナー登録のことについて真剣に話し合ってみる、「保険のお客様の中に、つい最近お子さんが移植を受けられた方がいる。今までは表面的にしか話をすることができなかったけれども、これからはもっと親身に話すことができる」といった感想やご意見をお聞かせいただきました。そして最後には「ドナー登録します」と言ってくださる若手社員の方も来られました。

POJの皆さんも今回の機会を通して何かしらをつかんで下さったとのごたえがありましたが、患者さんに対する思いが広がり、また、ドナー登録して下さる方も現れて、当協議会としても大変ありがたい講演会となりました。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMJP(4月14日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2023年3月末現在)

	2月	3月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,647	2,287	544,305	921,966
患者登録者数	225	226	1,734	66,332
移植例数	79 (20)	129 (37)	—	27,558 (1,840)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■3月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/663人、献血併行型集団登録会/1,582人、集団登録会/0人、その他/42人

■3月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,625人/20代 87,778人/30代 135,853人
40代 216,682人/50代 100,367人

■3月の20歳未満の登録者 173人

■3月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,788件(国内ドナー→国内患者)

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

プルデンシャル生命で 体験談を発表



4月17日(月)、プルデンシャル生命保険(POJ)東京中央支社(西永昌人支社長)のキックオフミーティングで、大橋一三さん(ドナー2回経験者)、干川三重さん(患者家族)、小石川知子さん(元患者・神奈川の会)の3人が、村上忠雄副理事長の進行の下、ライフプランナー約30人を対象として、

それぞれの体験談を話されました。POJはドナー・ニーズ・ベネフィット(DNP=ドナーに対する入院一時金等を支払うサービス)を日本で初めて導入した保険会社です。大橋さんは箱根駅伝で最初に患者さんのためのノボリ応援を始めた方で、その活動が当時のPOJの社長の目に留まり、箱根駅伝でのボランティア活動を通じた寄付をして下さるきっかけを作った方でもあります。そのような経緯があり、POJは以前から血液難病の患者さん支援に力を入れて下さっています。そんな企業風土を持つ社員の方々はドナー、患者家族、元患者の話をも真剣に聞いて下さり、終了後には3人の元に多くの方々が挨拶に来られました。「自分はもう50歳を過ぎてしまっただけ

ブロックセミナー開催②

東海北陸地区



2月19日(日)にあいち骨髄バンクを支援する会主催の「3回目のお手紙～今伝えたい思い」のイベントと合同で、東海北陸ブロックセミナーを開催しました。今回もコロナ禍であることを考慮して、あいちの会のイベントは現地開催とWeb参加、ブロックセミナーはZoomによる形式で行いました。

1部で行われた「3回目のお手紙～」

のイベントはとても感動的な内容でした。現在の日本骨髄バンクの制度では、患者さんと提供者さんは2年の間に2回までの手紙交換が認められていますが、移植後もしくは提供後2年以上経ってしまうと、もう直接お礼を述べることは出来ません。

しかし患者さんや提供者さんは、何年経っても「今を生きていること」「どこの誰だか分からないが命を救うお手伝いが出来たこと」を常に感謝しながら生活しています。

今回のイベントでは実際の患者さん、提供者さんが現在の想いを手紙に綴り、朗読されました。いつまでも変わらない感謝の気持ちを言葉にして発表されることで、私自身も移植を受けた当時の状況を思い出しましたし、また何よりも骨髄バンクの大切な役割を

再度認識することが出来ました。

2部に行われたブロックセミナーでは各県保健担当者、日赤、ボランティア団体から合計8団体、総勢17人の方に参加いただきました。活動報告ではコロナ禍において満足な活動が出来ず、もどかしい思いを全員が抱いていました。しかし、そうした中でも若年層の骨髄バンク登録を増やすために、大学や専門学校での「骨髄バンク語りべ講演会」を積極的に開催していた富山県に対して、どのようにして開催を増やすことが出来たのか、また開催するにはどのようなところに相談に行くのかなど、具体的な質問がされ活発な意見交換会が行われました。

今回も無事にブロックセミナーを行うことが出来ましたが、今年度こそは皆様にとっても平常時に近い形でボランティア活動が出来るよう心より祈念しております。(担当理事 服部真樹)

関東甲信越地区

3月19日(日)関東甲信越地区のブロックセミナーをリモートで開催しました。

6団体より19人、全国協議会より7人、計26人の参加がありました。

セミナーは参加者全員の自己紹介、大谷副会長及び副理事長3人の挨拶から始まりました。

最初に東京の会の松下さんより、都内のドナー登録推進活動の状況、説明員養成講座の状況及び新規説明員の東京の会への入会状況の報告をいただきました。

千葉の会からは3人の方に、コロナ禍以降の登録会の現状と課題、説明員不足対応、ケア帽子による患者支援、

ドナー助成制度、休暇制度導入に対する取組及び実績、ドナー登録推進活動の報告をいただきました。

続いて神奈川の会からは3人の方より、大学を中心とするドナー登録会の状況、ドナー助成制度、説明員養成講座の状況、医療講演会の実施、毎月のオンラインでの定例会やおしゃべり会、虹色ピクニック等の実施報告、日赤との協力関係によるドナー登録会、ケア帽子「コットンキャップ」による患者支援活動についての報告をいただきました。

アサガオの会の高野さんからは、新潟のドナー登録会の状況、ドナー助成制度の現状、クラウドファンディングの目標達成の報告とお礼の言葉をいただき、長野ひまわりの会の笠原代表か

らは、ひまわりの種の配布や看護学校での講演会、ドナー助成制度導入に関する報告等をいただきました。

続いて、埼玉の会の2人の方より、ケア帽子による患者支援、説明員養成講座、チャリティーコンサート、医療相談会及び患者・家族交流会等の報告をしていただきました。

最後に、元愛媛骨髄バンクを支援する会の会長で、骨髄バンク関連図書『椿の咲く日まで』(日本評論社)を秦野純一名で執筆された東京の会の三土さんより、同書の記述について、及び骨髄移植後生存率の上った現在におけるドナー対面について、お話をいただきました。

(担当理事 館野守男)

ハローキティの啓発グッズが新しくなりました

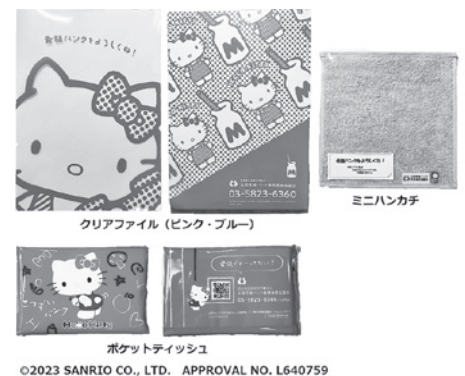
ハローキティのポケットティッシュ(PT)とクリアファイル(CF)が新しいデザインになりました。

PTは赤を基調としたデザインで、裏面には二次元バーコードを記載しました。遷移先は全国協議会の「血液疾患と骨髄バンク」のページです。一人でも多くの方にドナー登録の必要性を

知ってもらうための工夫をしました。

CFのデザインは1種類ですが、ピンクとブルーの2色を用意しました。また、今治のミニハンカチも新色(ターコイズブルー)になりました。

※当協議会の啓発グッズは骨髄バンク事業の啓発や患者支援活動を目的とした用途に限定して作成されています。啓発や患者支援以外の目的では使用できませんのでご了承ください。



©2023 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L640759

東日本大震災を忘れない! 防災フェアで今年も献血&ドナー登録!



3月12日(日)新宿中央公園・水の広場で東日本大震災をはじめとする復興支援イベント「第12回 防災フェア&チャリティーイベント」が開催され、「献血・骨髄ドナー登録活動」において献血バス1台による献血併行型ドナー登録会が実施され、東京の会から説明員6人とボランティア3人が参加しました。

このイベントは東日本大震災の復興支援イベントとして始まり、西新宿角三町会主催、東京新都心ライオンズクラブ共催で2012年から毎年3月11日前後の日曜日に開かれています。新型

コロナウイルスの感染拡大で2020年は中止、2021年、2022年は規模を縮小して献血と骨髄ドナー登録のみの開催でしたが、今年4年ぶりに各種防災&チャリティーイベントが復活し、ステージや模擬店、チャリティーバザーや「ぼうさいスタンプラリー」などに親子連れなど多くの人が集まりました。

献血・骨髄ドナー登録では、2年前から「献血・ドナー登録事前登録制」を導入しています。主催のライオンズ・町内会のメンバーが15分刻みの予約表を作り、当日参加する方に事前に何時に来られるかを問い合わせ、ダブらないように予約表を埋めていきます。当日は時間通りに来場するとその順番で受け付け、待ち時間なしに献血の案内ができ同時にドナー登録への呼び掛けも出来ます。東京の会は献血バス前で血圧測定を担当しながら測定を終えたタイミングで声をかけ、希望さ



れた方に説明員がドナー登録の説明を行いました。また当日の来場者にも献血やドナー登録を呼びかけ、それにより興味を持ってくれた人が献血にご協力くださいました。

その結果10の方がドナー登録してください、内訳は20代9人、40代1人でした。若い方々に登録をいただき、献血ルームでの活動とは違った達成感に包まれました。東日本大震災のあった午後2時46分から会場全体で1分間の黙とうを捧げてイベントは終了し、献血バスは16時まで稼働の後に終了しました。来年もこの防災フェアが開催されることを願っています。

(骨髄バンクを支援する東京の会 若木 換)

札幌の3月は春待ち、4月は桜



チャリティー「春待ちコンサート」

北海道骨髄バンク推進協会は、例年よりも早く雪解けが進んだ3月14日(火)午後7時から中島公園内の札幌コンサートホールキタラで、道内21回目となる骨髄バンクチャリティーコンサートを開催しました。

前回と同じく「春待ちコンサート」と銘打ったこのコンサート。今年は、札幌交響楽団コンサートマスターの田島高宏さん(ヴァイオリン)と奥様のピアニスト田島ゆみさんのお二人にご出演いただき、骨髄バンクのPRと収益金を患者支援基金への寄付やボランティア活動の財源として活用すること

をめざしての開催です。

田島高宏さんは、オーケストラのコンサートマスターとしての仕事に加え様々な演奏活動など大変お忙しくされているにもかかわらず、趣旨に賛同され快く出演を引き受けてくださいました。

当日、クラシックファンに止まらずチャリティーに賛同して下さった多くのお客様をお迎えしたホールは、美しい音楽と田島さんの人柄から伝わるあたたかな雰囲気満たされました。

まだまだ感染リスクが残る中での開催でしたが、ご出演のお二人のご協力やボランティアの頑張りでも黒字になり、目標の一つとした患者支援基金への寄付も実現できました。快くボランティア出演を引き受けて下さったお二人と応援して下さったすべての皆様深く感謝します。

ありがとう桜、北海道も開花

2009年に全国各地で植樹された「ありがとう桜」が、今年もようやく北海

道でも開花しました。

14年前の5月に札幌北極病院の敷地の一角に植えられたエゾヤマザクラは5mを超えるまでになり、今年もヤマザクラ特有の可憐さで咲いてくれました(写真は4月19日)。



植樹当時、院長だった笠井正晴先生が「この桜がたくさんの花を咲かせてくれて患者さんとお花見ができる日が来るのが待ち遠しい」と話して下さったのを思い出します。

なお、釧路市役所前にある日本最東端のありがとう桜は、今年は5月上旬に開花予定で、今年も2月の沖縄から日本列島を北に東に咲き継いだ桜のリレーは間もなく無事にゴールできそうです。

(北海道骨髄バンク推進協会 島山茂房)

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

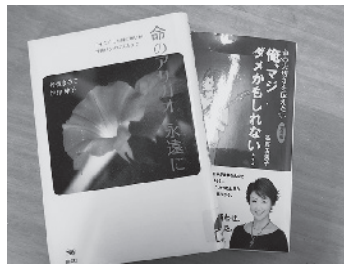
新潟

クラウドファンディング
を終えて

NPO 法人骨髄バンク命のアサガオにいがた、企画リーダーの古川俊治です。今回当会がクラファンに挑戦した理由は、骨髄バンクが抱える課題を当会会長丹後まみ子と事務局長高野由美子の書籍を読んでもらうことで、解決に少しでも繋がればとの思いでした。

おそらく全国のボランティア団体は、会費、行政の補助金、寄付金等で運営し、資金面での余裕はなく、思い切った企画を打つことは難しいと思います。

クラファンのメリットは、資金調達と並行して広報活動も行えることがあります。今回、全国から支援して下



クラファン成功によって電子化される書籍

さった方の数は145人。ページ訪問者が1,740人。新聞やテレビにも取り上げていただき、「骨髄バンクのドナーを増やしたい」という活字を見た人の数ははかりしれないと思います。なので、少しでもドナー登録に繋がることを期待しています。

クラファンの成功のコツとしては、YouTubeの参考動画で勉強することを前提とします。やってみてわかった意外なことを挙げると、一つ目は、支援者の多くは、リターン品を必要としない寄付金みのコースを選択する方が多いということです。

二つ目は、コース設定する場合、一万円コースを軸にするべきだということです。私の寄付に対する市民感覚は、三千円位で、五千円寄付するのも勇気が必要とっていました。

しかし、五千円を軸にすると一人当たりの支援金額が低く抑えられてしまい、その分、目標額を達成するには、より多くの方の支援が必要となります。また、企業用として用意した十万円コースの支援も3団体ありましたので、あえて大口のコースも用意すると良いと思います。

三つ目は、リターン品を協賛品で行えたのも良かったです。そして、全国骨髄バンク推進連絡協議会からは、クラファンからのネット支援は、年配の方が苦手なので、現金書留や指定銀行へ振込の手段も設けた方が良いとのアドバイスをいただき効果的でした。沢山の方々からのご支援本当にありがとうございました。(古川俊治)

ライブイベントで
献血併行型登録会開催



一般社団法人SNOWBANK 代表の荒井 daze 善正です。2023年3月18日に「THE BANK」を大阪で開催しました。今回はLOW IQ 01 & RHYTHM MAKERS、TheBONEZ、G-FREAK FACTORY、DJ ダイノジ、AKB48 永野芹佳、DAZEBAND が出演し献血・骨髄バンクドナー登録を獲得することが出来ました。会場内の献血バスで献血・骨髄バンクドナー登録した方しか手に出来ない非売品Tシャツや出演者と写真が撮れる特典を用意し献血受付81名実施者63名、骨髄ドナー登録者31名を獲得しました。やはりバンドマンのファンはそのイベントの主旨を大切に協力する文化があると感じます。ライブもとても盛り上がり来場者から「開催してくれてありがとう！」

とお声掛け頂いたり、会場で献血・骨髄バンクドナー登録しなかった方々もライブでのバンドマン達のメッセージを受けてSNSなどで「今度献血ルームでやろう」などの投稿も見ることが出来ました。今回獲得した登録者以上に必要性が伝えることが出来たと思います。私が目指す普及啓発活動は自分たちが伝えたい事をただ発信して押し付けることではありません。まだ献血・骨髄バンクドナー登録を知らない人たちが望むコンテンツを用意してそういった人を集め自ら行動したくなる普及啓発活動を目指しています。やは

り本人が必要と感じて行動を起こすパワーが最も強いと考えているからです。これからもこういった活動を増やし献血・骨髄バンクドナー登録が当たり前の社会を創りいつかSNOWBANKの活動が必要ない社会を創るべくこれからも突き進んでいきたいと思えます。この活動は「雪主寄付」に支えられて実現しています。この活動を継続する為にもSNOWBANKのホームページから行える「雪主寄付」へのご協力よろしくお願いいたします。

雪主寄付はこちらから



心からのご寄付に感謝申し上げます ● 3月21日～4月20日(敬称略)

●一般		●募金箱		磯屋食堂 伊藤 博康	現金	10,658 円		
飛田 行康	現金	10,000 円	株式会社 クスリのアオキ	現金	418,073 円	レンブラントホテル東京町田	現金	8,094 円
上田 三重	現金	2,000 円	株式会社 北越ケーズ	現金	231,608 円	齋藤内科医院	現金	6,598 円
匿名	現金	1,000 円	株式会社 マルト商事	現金	55,018 円	医療法人社団 今内科消化器科	現金	10,124 円
匿名	現金	50,000 円	株式会社 ナルックス	現金	43,410 円	茂原商工会議所	現金	1,474 円
匿名	現金	50,000 円	株式会社 フクヤ	現金	1,335 円	フランス亭	現金	4,372 円
●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金			株式会社 THINK フィットネス	現金	215,323 円	●つながる募金		
北海道骨髄バンクチャリティーコンサート	現金	180,000 円					現金	14,402 円
日根 和美	現金	10,000 円						
塩谷 泰人	現金	1,000 円						
本田 真奈美	現金	5,000 円						
乾野 海人	現金	3,000 円						

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会